

花祭りの象さんがでてきました

山田のある倉庫から、昔、花祭りで子供たちが青年団のトランペット等の演奏をバックに歌いながら町内を引いて歩いたものです。

「小山田郷土史読本」 山田町 竹内雅彰氏編からコピーさせていただきました。

昔をしのんで語らえたらと思います。

矢田義秀

花祭り

一 昔も昔三千年花咲き匂う春八日

ひびき渡って一声は天にも地にも我一人
四月の第二日曜が来ると山田の子供は
こんな歌を歌いながら家を引くのである。
花御堂が飾れている。



二 立派な国に生まれ出富も位もありながら
一人お城を抜け出でて山にこもりし十二年
歌は楽隊と合わせられて愉快地に聞こえて来る。

三 丸い世界の真ん中で教えの門を打ち開き
乾ける人にふりまいた甘露の水は限りなき
象の背中の花御堂はゆれながら進んで行く。

四 何年たっても変わらずに咲いたままなる法の花
きれいな一つを胸に挿し我らも負けずに励みます
お寺の御門も近づいてきた。手に手に卍の旗を振りかざして、行列は進む。
お寺は人出でいっぱいである。

花祭りは子供にも大人にもうれしい一日である。